

定例議会で議員は一般質問ができます。一般質問とは「市政一般に関する質問」を略した言い方で、議員が市政に関するさまざまな問題について、市長や部長など行政の執行機関に質問することです。一般質問により、市の政策や仕事の進め方の見直し、変更、新たな政策提案を認めてもらう事が目的だと思いい取り組んでいます。9月議会では、週刊増田好秀vol.9「子供達を育てるのは誰？」の内容「市川市39校の公立小学校全てで『コミュニティ・スクール』（地域住民に積極的にかかわってもらって運営の一部を担う形態の学校）を実践し、『授業等でボランティアの人達が参画する』について一般質問を行いました。教師は、採点作業や遠足等の際、人手がなく大変な点を解消したい。大人と接点を増やす事により、物怖じしない子供を育てたい。成長していく子供達と接するのは楽しく生き甲斐になり、そんな大人を増やしたい。子供が楽しい。教師が助かる。大人が生き甲斐を得、活性化され一石二鳥!と言うのが私の主張なのですが、市川市では現体制(コミュニティサポートにおける学校支援体制)で十分効果を発揮している。増田の考え方とは大差がない。という回答でした。

私が现阶段で感じている大きなギャップは、「学習クラブの活動における地域支援者の活用につきましては、あくまでも学校のニーズに基づき進めている。」という点です。「児童生徒のために専門的な情報や技術による体験的な学習の場を支援していただくものである。」というのは実は副次的なメリットであり、前述したメリットや学校で大人が増える事によるイジメや暴力問題等の抑止効果を狙っていった方が「地域ぐるみで子供を育てる」という考えを表現できます。市川市の執行機関の方達の、教育環境をもっと良くしたい。という気持ちを邪魔する気持ちは毛頭ありません。その上で、今よりもっと市川市は良くなる。と信じて、この件については引き続き、少しでも切り口を変えて活動を続けていきます。「今後も住み続けたい市川市」を思い描き、話し合ってみてください。個々人の想いが集まれば、良い街が形成されます。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ!

平成24年7月12日

増田好秀